Ⅰ　学校の概要

学習習慣形成モデル校事業　　高松市立川島小学校

◆児童数及び教員数

〇児童数

第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年	特別支援	全　校
３学級 ８３名	３学級 ９５名	３学級 ７５名	３学級 ７３名	２学級 ６８名	３学級 ７６名	５学級 ２０名	２２学級 ４９０名

〇教員数　２９名

◆学校の特色

本校区は旧山田町の中心地で，由良山や春日川，田園等自然豊かな地域であるとともに，多くの神社や寺社があり，古墳，相撲の土俵跡，南海道跡等，歴史的環境も残っている。また，文化的環境として県立図書館・県立文書館等県の文化ゾーンも近いことから，児童が豊かな体験をしたり，学びを深めたりすることのできる環境の整った地域である。

地域の学校教育に対する関心は高く，PTA，子供会育成連絡協議会等の活動は積極的で，長寿会をはじめ各種団体等の地域をあげての学校への支援体制が十分できている。また，山田地区の教育連携が進み，幼稚園・保育所との連携や近隣小学校や中学校との連帯した取り組みも充実してきている。

保護者の職業構成は，かつての農業中心から次第に勤め人が多くなり，農業は祖父母等が営み，保護者の共働き家庭が増えている。そのため，平常日に児童は下校後，子どもたちだけで過ごす家庭が多くなっている。

Ⅱ　研究主題等

研究主題

学びに向かう力を育成するための川島スタイルの創造

ーキャリア教育の視点を取り入れた学習習慣形成の在り方ー

◆研究主題設定の理由

本校では，昨年度まで「自ら学び，伸びていこうとする児童の育成」を現職教育のテーマとし，特に「見通しが持てる授業づくり」「伸びを実感する他者評価の工夫」「学び合いの場における工夫」の三つの視点で研究を行ってきた。また，発達障害や特別な教育的支援を要する児童への配慮からユニバーサルデザインの考え方による環境の整備にも力を入れてきた。その結果，児童のやる気が高まり，学びを深めていくことができるようになってきた。しかし，家庭学習まで児童の学習意欲が継続することが難しく，学びのつながりや広がりといった点に課題が見られた。

そこで，児童の学ぶ意欲を高める授業づくりの研究をさらに深めるとともに，学習習慣の形成につながるための家庭や地域との連携の在り方を探ることにした。学校での学びを家庭や地域につなげる工夫や家庭・地域で学んだことを学校の授業につなげる工夫を行い，双方向のやりとりの中で児童の確かな学力を育んでいきたい。また，キャリア教育の視点を取り入れ，学ぶことと自己とをつなげながら学びを深め，生涯にわたって主体的に学び続ける力の育成をめざしていきたい。

◆研究内容及び方法

「夢に向かってチャレンジする力」や「学びに向かう力」「思考力・判断力・表現力等」「知識・技能」を育むために，「授業づくり」「家庭学習の習慣化」「自分づくり」の３つの取り組みをキャリア教育の視点から連携させながら実践を行う。

1　授業づくり

今年度は特に以下の３つの重点項目を意識して授業改善を行う。なお，子どもたちが自ら気づくことを促し，主体的に考えさせ，それを成長・発達へとつなげられるように，「語る」「語らせる」「語り合わせる」「伸びを実感させる」ことを重視する。また，だれもが分かり見通しをもって授業に参加できるようにユニバーサルデザインの考え方による環境整備を行う。

（1）課題設定の工夫

・自分とのつながりが意識できるように，実社会・実生活との関連を図る。

・学ぶ必要感がもてるように，本気になれる問いや体験を行う。

・主体的に課題に取り組めるように，自己選択・自己決定の機会を設ける。

（2）学び合いの工夫

・自分の考えをしっかりともてるように，思考の機会を設定する。

・学びを深められるように，対話の機会を設定する。

（3）振り返りの工夫

・学びを次につなげられるように，新たな問いが生まれるような発問を行う。

・家庭や地域での自主的な学習につなげられるように，発展的な課題を提示する。

・自分の伸びが実感できるように，多様な評価を行う。

2　家庭学習の習慣化

「学校で興味をもったことを調べたいな」「自分のために学習したいな」という気持ちがもてるようなしかけづくりを行う。また，家庭と情報を交換し合い，一体になって進めていけるように留意する。

（1）夢ノートづくり

・自分の夢や目標の達成を目指して，主体的・継続的に学習するためのノートづくりを行う。

（2）夢ボードの作成

・自主学習の課題のヒントになるように，授業の発展的な課題や普段の生活の中での疑問などをボードに記入し，主体的な学習を促す。

（3）自主学習カレンダーづくり

・生活習慣の改善を図りながら，自分で家庭学習の計画を立てることができるようにする。

（4）自主学習コーナーの設置

・取り組みの幅が広がるように，ノートを交流する場を設ける。

（5）家庭で語り合う場の設定

・子どもと保護者が夢や働くこと等について話し合う場を設け，学ぶ意義について考える機会をもつ。

（6）授業公開，懇談会，講演，自主学習だより等

・家庭と学習意欲や学習習慣について共通意識がもてるように情報を共有する。

3　自分づくり

自己肯定感や自己有用感の高まりをねらって，自分を知ったり，仲間と交流したりする活動を行う。

（1）きらきらタイム

・自分のよさや興味，夢，目標等を考え，語り合う活動

・対話の基礎を学ぶ活動

（2）なかよしタイム

・異学年の仲間との交流活動　　・他者とのかかわり方を学ぶ活動

Ⅲ　成果の評価計画（検証方法）

児童，保護者，教員へのアンケート，１０の指標等から評価・検証を行う。PDCA のサイクルにより課題については改善し，研究を深めていく。また，抽出児を設定し，追跡することで内面の育ちや行動の変容を見取っていく。

1　家庭学習や学習意欲，自尊感情等についての児童の意識や家庭学習時間調査

・児童対象のアンケートを実施し，変容を把握する。（５月，１１月の比較）
・例「興味をもったことを家庭学習で調べたり，まとめたりすることが好きですか」（学習意欲）
　「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」（学習習慣）
　「将来の夢や目標があり，それに向けて家庭や地域で学習していますか」（キャリアの視点）
　「自分にはよいところがあると思いますか」（自分づくり）
　「むずかしいことでも，失敗をおそれないで挑戦していますか」（学びに向かう力）
・自主学習カレンダーより家庭学習時間を調べ，変容を把握する。（９月と１１月の比較）

2　教員と児童双方による授業評価

・教員と児童双方にアンケートを実施し，変容を把握する。（５月，１１月の比較）
・教師へのアンケート例
　「家庭学習とつながるような課題設定や振り返り等の授業の工夫をしていますか」（授業づくり）
・児童へのアンケート例
　「普段の授業では，学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」（授業づくり）

3　保護者の家庭学習や児童へのかかわりについての意識調査

・保護者にアンケートを実施し，変容を把握する。（５月と１１月の比較）
・例「子どもは自ら家庭学習に取り組んでいますか。」（学習習慣）
　「子どもと将来の夢や目標について話をしていますか。」（キャリアの視点）
・どんな話をしたのか，どう子どもが変わったのか自由記述してもらう。

4　学校関係者評価委員会

・学校評議委員の方々から本校の研究の取り組みについて評価をいただき，改善を図る。

Ⅳ　研究成果の普及方法

校内現職教育の授業研究を年間に近隣校や家庭，地域に向け数回公開し，参加者と共に成果と課題を共有するとともに，香川の教育づくり発表会の場での発表を行うことで，研究成果を広く普及させる。また，地域や山田中学校ブロックの４小学校や中学校，幼稚園，保育所への連携と公開を進める。

授業研究の日程は以下の通りである。

月日	内容	単元名
６月２９日（木）	６年　算数科　研究授業	円の面積
９月　７日（木）	５年　社会科　研究授業	未定
９月２１日（木）	１年　生活科　研究授業	未定
１０月１９日（木）	２年　国語科　研究授業	未定
１１月３０日（木）	３年　社会科　研究授業 ４年　国語科　研究授業	未定 未定

研究実践やさまざまな立場の方々からの意見をまとめ，家庭や地域に開かれた川島小学校独自のカリキュラムをデザインし，川島スタイルを創造していきたい。